

ともに生きる

命・生き方

小学校高学年

中学校

高校

社会

道徳

その時 歴史が動いた  43分

6000人の命を救った外交官～杉原千畝(ちうね) ビザ大量発給決断の時～

(2001年放送)

この番組の良さ



実話をもとに考える社会正義

第二次大戦中の1940年夏、リトアニアの領事代理・杉原千畝は、ナチス・ドイツに迫害されたユダヤ難民6000人にビザを発給し、命を救います。番組では、公表された千畝の自筆メモや夫人の証言などから、千畝が官僚の手続きにとらわれず、人道的見地に立って多くの命を救った経緯が描かれています。実話に心が揺さぶられ、社会正義について考えることができます。

杉原千畝の生き方について知る

外務省は戦後、本国の訓令に反したという理由で千畝を退職させます。しかし、千畝生誕100周年に当たる2000年、正式に謝罪をし、千畝の名誉は回復されました。近年教科書や歴史書などで取り上げられたり、映画化されたりして注目を浴びている千畝について、歴史的な資料、証言などから、さらに詳しく知ることができると同時に、日本人としての誇りを感じることができる番組です。

番組活用のポイント

道徳科の授業で扱う

道徳科では、よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うために、道徳的な価値について理解し、自己の生き方についての考えを深めることが大切です。本番組は、社会正義の実現について、多面的・多角的に考えることができる番組です。ビザの発給を訴え日本領事館に押し寄せる大勢のユダヤ難民。何度も日本政府にビザ発給の許可を頼み込む千畝。許可はできないという外務省からの回答。ソ連の進駐により国外退去の期限が迫る中、葛藤する千畝の思いを考えることから、社会正義の実現について深く考えていくことができます。政府の命令に従うことが当然の時代に、自らの危険を顧みず、人道主義・博愛精神を貫き通した千畝。ビザを書き続ける千畝を支えていたものとは何かを考えることを通して、差別や偏見に立ち向かい、公平で公正に行動しようとする態度について深く考えていくとよいでしょう。

今日的な課題と関係付けて考える

今日的な課題の一つに、いじめの問題があります。差別や偏見がいじめにつながることは、小学校高学年から中学校の児童生徒であれば、理解できるようになります。一方で、自分自身の問題として捉えたり、立ち向かっていったりすることは容易ではありません。本番組を視聴することで、厳しい時代にありながら、強い意志をもって正義を貫いた千畝の思いに共感し、いじめなどの場面に出会ったときも、強い意志を貫こうとする実践意欲を育てることにつながります。

また本番組は、人権、平和といった社会の持続可能な発展を巡る問題と深く関わる内容です。歴史の一場面として捉えるだけでなく、現代的な課題を考える一助として扱うことが重要です。